

はじめに

麻酔科医の使用する薬剤をみて、研修医あるいは他科の医師にその使い方を尋ねられることがある。いわゆる“麻酔科的な”使い方について問われているのだと思う。特に、麻酔科医が使う薬は“さじ加減”次第で患者状態が大きく変化するので、詳しく知りたいものが多い。そのような薬剤をまとめて、使いやすい薬剤ノートを作りたいと考えた。何でも載っているものでなく、周術期に使用する薬剤について、実用的な内容だけをピックアップして麻酔科医のスパイスを加えた“ちょっといい”ノートだ。

研修医はもちろん周術期管理に関わる外科系医師や看護師、薬剤師、MEなどは麻酔科医がどのような意図で使用しているかがわかると仕事がしやすくなるだろう。そんな期待を込めて、麻酔科薬剤ノートを編集したいと考えた。従ってこのノートは麻酔科医だけでなく、外科系医師、救急医、看護師、薬剤師、MEなどの周術期医療に関わる医療従事者をはじめ、初期臨床研修医の皆さんにも役立つような内容とした。

古い薬は思い切って削除して、現在よく使用する薬剤を中心に採択することにした。普通の「薬品集」ではなく、周術期に遭遇する状況においての使い方を解説して、実践で使える記述とした。1薬剤1ページを基本とし、量が多く偶数ページになるときは必ず見開きにするなどの工夫を施した。また、薬剤の写真と薬価を掲載したのも類書にない特徴である。適宜コラム欄や解説のページを設けて、常識的に知っておかなければならない薬理や薬剤の性質や特殊な使い方なども解説した。薬品の添付文書にあるような回りくどい表現を使用せず、端的に短い言葉で表記して読みやすさに力を入れた。本書は、学習の便を最優先したため、正式名称ではなく略称を使用しているところもある。少しでも気になる場所があれば以下のURLにある各薬品の添付文書で確認してほしい。

http://www.info.pmda.go.jp/psearch/html/menu_tenpu_base.html〔医薬品医療機器情報提供ホームページ〕

2010年5月

讃岐 美智義